

やっと秋の気配が感じられるようになりました。
皆様、体調に気をつけてお過ごしでしょうか？

今回は臨床腫瘍科部長の高野利実先生に、現在行っている
治験・臨床研究に対する熱い思いを語っていただきました。



臨床腫瘍科（腫瘍内科）は、2010年4月に3人の腫瘍内科医が加わって本格的に稼働しました。以来、「日本の真ん中に日本一の腫瘍内科をつくる」という目標を掲げ、臨床、教育、研究の3面において、これまでにない新しい取り組みをしています。

研究面では、臨床試験に重点を置き、目の前の患者さんに最善の医療を提供し、かつ、世界のがん医療の発展に貢献するために、新しいエビデンスを創り出していくことを目指しています。

がん薬物療法は日々進歩しており、分子標的治療薬を中心に、新薬開発も盛んに行われています。当院では、現在、改良型G-CSF製剤の治験『KRN125<2>』などを実施中です。今後は、より多くの治験に参加し、オンコロジー領域の新薬開発に貢献していきたいと考えています。

新しいエビデンスを創るには、企業主導の治験だけでなく、医師主導の臨床試験も重要です。新薬が次々と登場する中で、日常診療におけるクリニカルクエスションも増え続けています。「文献検索で解決できなければ臨床試験を立案する」「エビデンスは探すものではなく創るもの」という考えのもと、当科では、全国規模の臨床試験グループに積極的に参加し、数多くの臨床試験の企画や運営に携わっています。

当科では、高野が研究事務局を務める「HER2陽性転移性乳癌において『トラスツズマブ+カペシタピン併用療法』と『ラパチニブ+カペシタピン併用療法』を比較するランダム化第Ⅱ相試験（WJOG6110B）」をはじめ、西日本がん研究機構（WJOG）、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）、Japan Breast Cancer Research Group（JBCRG）、がん臨床研究支援事業（CSPOR）の、乳癌、大腸癌、胃癌に関する臨床試験16件を実施中で、症例登録数も上位に入っています。



これら臨床試験の実施にあたっては消化器外科や乳腺内分泌外科などの多くの先生方、および、薬剤部・看護部・中央検査部などの皆様に、多大なご協力をいただいております。この場を借りて心より感謝申し上げます。

今後は、虎の門から、日本、アジア、世界を巻き込んで、さらに質の高い臨床試験を企画、実施し、がんで苦しむ患者さんが幸せになれるような、「真のエビデンス」を発信していきたいと考えています。

（臨床腫瘍科 部長 高野利実）

不明な点は、遠慮なくお問い合わせ下さい。
次回は、2012年1月1日発行予定です。

問い合わせ
本院治験事務局 3430
CRC室 3420
分院治験事務局・CRC室 5317